

平成 31 (令和元) 年度 自己評価表

鳥取県立米子白鳳高等学校

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>挑戦の精神をもって何ごとにも取り組み、豊かな人間性と 社会の発展に進んで貢献する有意な人材を育成する。</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>1 学ぶ意欲の喚起・育成 2 心豊かに他と共生する態度の育成 3 社会的な自立に向けた支援</p>
---------------------------	--	----------------------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 ( 1 ) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 学ぶ意欲の喚起・育成	○授業のユニバーサルデザイン化	○授業を大切にしている態度を育てることが必要である。	○学習に集中し、意欲的に授業に参加することができる。	○ユニバーサルデザイン・合理的配慮の観点を取り入れた授業の展開 ○授業のための全職員による生徒情報の共有 ○支援が必要な生徒への個別指導	○ユニバーサルデザイン・合理的配慮についての説明を全職員に行った。 ○支援員を配置し、個別指導を充実させている。 ○授業の出席率は改善傾向にある。 ○生徒の情報は、全職員が学事で共有できるようにしている。	B	○伝え方を工夫するなど、ユニバーサルデザイン・合理的配慮に基づいた授業をさらに推進する。 ○さらに情報を共有し、個別の支援・声かけ等を継続し、授業への動機付けを行う。
	○ICT活用教育の推進	○ICT化の進展に伴い、情報活用能力の育成が必要である。	○ICTの活用ができる。	○ICT活用のための教員研修 ○各教科でのICT活用の推進 ○NHK高校講座でのICT活用	○タブレット・パソコン等のICT機器は引き続き多くの先生が授業等で利用されている。 ○ICT職員研修については、全職員に対しては行っていないが、担当者が研修会に参加し、校内のICT環境の整備に努めている。	B	○タブレットを含めICT機器の活用を引き続き推進する。
	○生徒理解と環境整備	○生徒のおかれた状況を理解し、学ぶ意欲を高める必要がある。	○生徒が、安心して学校生活に取り組むことができる。	○個人面談・Hyper-QUの実施による生徒理解と個別支援の充実 ○SC・SSW・白鳳サポーター・特別支援教育支援員との連携	○Hyper-QUの研修を行い、生徒理解を深めた。 ○各課題会議での情報共有やSC・SSW・白鳳サポーター・特別支援教育支援員との情報共有を行った。 ○精神科学校医による教育相談を実施した。	B	○共有した情報をもとに、支援方針を引き続き検討していく。 ○中学校からの引継ぎ「合理的配慮」申請による支援会議を活用し、個別支援をさらに充実させる。
2 心豊かに他と共生する態度の育成	○基本的な生活習慣の確立	○挨拶、言葉遣いなど基本的な生活習慣を身につける取組が必要である。	○すすんで挨拶をし、社会人として必要な言葉遣いを行うことができる。	○遅刻・欠席の防止指導 ○積極的な挨拶・声かけ ○社会人としてのマナー指導 ○健康管理指導の推進	○基本的な生活習慣、マナー等について担任を中心に指導し、身につけてきた。 ○挨拶運動、文化祭などの行事を計画どおり実施できた。 ○健康管理の意識に個人差がある。	B	○生徒が自発的に挨拶し、時間を守り、健康的に学校生活が送れるよう、積極的な日々の声かけ、担任や関係職員との連携を継続して行う。
	○自己理解・他者理解の促進	○人間関係力の育成をする環境づくりが継続的に必要である。	○生徒同士の信頼関係を醸成し、お互い尊重し合ってクラスが居心地の良い場となる。	○生徒理解のための教員研修の実施と充実 ○エンカウンターの実施 ○性に関する指導や人権教育指導の充実	○計画どおり教員研修を実施し、教員の生徒理解、生徒の自己理解が深まった。 ○年度当初から継続してエンカウンターを実施し、居心地のよいクラスが構築でき、人間関係作りを行った。 ○計画どおり性に関する指導や人権教育指導の事業を実施し、生徒の意識を高めることができた。	B	○生徒間の人間関係を引き続き育成する。 ○今後もエンカウンターを実施し、安心できる居場所としてのクラス作りを行う。
	○通級による指導	○人との関わり方やコミュニケーションを特に苦手とする生徒がいる。	○対象となる生徒が自分自身を認めながら自分について理解し、自らの課題に適切に対応していくことができるようになる。	○生徒ひとりひとりの課題に応じたきめ細かい指導 ○「通級による指導」で学んだことを通常の学級で活かす ○校内支援体制の整備 ○通信制課程にも通級による指導を導入するための環境整備	○通級も含めた特別支援教育充実事業を計画どおり実施した。毎時間後の振り返りの評価も高く生徒の満足度も高かった。 ○「通級による指導」で学んだことを通常の学級で十分に活かすところまでは至らなかった。 ○通信制課程における通級による指導を導入するための環境整備を行った。	B	○通級における指導に関する調査・研究をさらに進め、通級による指導を充実させる。また通信制課程においても、さらに調査・研究を充実させる。 ○通級による指導で学んだことを通常の学級で活かすために、教職員への周知の在り方を検討する。
	○体験活動とおとした社会性の育成	○社会的体験を積み重ね、さらに社会性を高める必要がある。	○諸活動において、自らすすんで行動し自信と責任を持って活動することができる。	○定通充実事業(チャレンジものづくり体験・テーブルマナー講習・乗馬体験・校外研修・蔵書点検ボランティア)の検証と発展 ○アルバイト、ボランティア活動の推進	○体験的活動を計画どおり実施。外部協力機関との連携により、生徒の社会性が育ち、いきいきと学校生活が送れるようになってきている。	B	○今後も引き続き体験活動をおとして、生徒自ら進んで行動できるよう、事業を実施する。
	○地域社会との交流	○地域との交流をおとし、地域社会や周りの環境に対する関心をさらに高める必要がある。	○地域社会や環境に関心をもち、異世代とのコミュニケーションができる。	○さつまいもの植付・収穫・会食を通した園児との交流 ○淀江地区との交流と地区活性化への貢献(銭太鼓、傘踊り体験、和傘作り、ヒガンバナの植栽活動)	○計画どおり事業を実施し、地域の人々や文化に触れることで、他者との関わりや地域とのつながりを学ぶことができていた。	A	○今後も地域との交流活動や文化的活動を続けていく。
3 社会的な自立に向けた支援	○キャリア教育の充実	○社会の変化に対応するため、進路意識を早期に向上させる必要がある。	○進路に対する意識付けと自分の適性にあった進路実現を達成することができる。	○就職・進学講演会の開催 ○個別面談や相談の実施 ○学年団・C A と連携した進路指導 ○インターンシップの推奨	○個別面談や相談を基本にして、学年団及びC A と連携した進路指導を実施し、進路の意識付けと個々の適性に応じた進路実現をほぼ達成した。 ○生徒の志望に応じて、今後もインターンシップに継続して取り組む。	B	○個別面談や相談をいっそう充実させる。
	○「産業社会と人間」 「総合的な探究・学習の時間」の充実	○社会的自立に向けて、さらに系統的な学習の確立が必要である。	○社会的自立に必要なスキルが、学年に応じて徐々に身につけている。	○系統的な学習プログラムの構築 ○学習成果発表会の実施 ○面接・着こなし講習会の実施	○自立に向けた活動を計画どおり実施した。プレゼンテーションなど自己表現力や、卒業後の進路目標を立てたり、自立に必要なスキルが徐々に身につつつある。	B	○今後も自立に向けた活動を系統的に企画・実施をする。
	○関係機関との連携	○支援が必要と思われる生徒について、関係機関との連携が必要である。	○個々の生徒が、それぞれ進路相談および進路活動の充実により進路実現を図ることができる。	○上級学校・事業所見学の実施 ○ハローワーク、若者サポートステーション、障害者就労・生活支援センターとの連携	○事業所見学の実施やハローワークとの連携をもとにして、進路活動の充実を図った。SSWが外部の関係機関と繋ぐことによって個々の生徒の支援が充実した。	B	○若者サポートステーションや障害者就労支援機関との一層の連携を図る。
4 学校業務改善に向けての取組	○会議等の時間短縮と見直し	○会議が長時間になることがある。また、会議が重なる時期がある。	○必要な会議で効率よく協議することができる。	○会議の時間設定と遵守 ○会議の持ち方の工夫 ○会議に向けて関係機関の事前の連携	○終了時間を決め、効率よく会議をすることができた。	A	○今後も校内関係者で予め連携・調整しながら効率のよい会議にしていける。
	○長時間勤務の解消	○学校行事などにより長時間勤務になる時期がある。	○月 4 5 時間超勤務者がいない。	○時間外勤務実入り力の呼びかけ ○衛生委員会での時間外労働時間集計結果の周知と超勤務者の声かけ ○定時退勤日・定時退勤週の実施	○月 45 時間超勤務者は 11 月 までで 延べ 4 人 だった。 ○年間を通して超勤務者への声かけ、定時退勤日・定時退勤週は実施できた。	B	○引き続き声かけをしていく。 ○次年度も定時退勤日・定期退勤週を設定し、定時退勤を推奨する。
	○働く上で効率のよい職場環境づくり	○職員室など整理が必要などところもある。共有フォルダもデータが整理・整頓がいきとどいていない。	○快適な職場環境で業務が効率的にできる。	○校内安全点検の実施と破損箇所等の迅速な改善 ○教職員の整理・整頓意識の啓発 ○共有フォルダの整理	○定期点検のほか、台風や連休後の点検を実施し、破損箇所等については速やかに対応した。 ○職員室・事務室などは比較的整頓されている。 ○共有フォルダはまだ未整理である。	B	○今後も破損等が起きた場合は速やかに対応する。 ○サーバ更新による共有フォルダのアクセス権の変更を速やかに決定し、整理を行う。

評価基準 A:目標を達成している B:ほぼ計画どおり推進している C:取組がやや遅れている D:一層の取組が必要である E:目標・方策の見直しが必要である

<100%>

<80%程度>

<60%程度>

<40%程度>

<30%以下>